

令和2年2月5日

報道機関 各位

RECNA 長崎被爆・戦後史研究会 公開・総括シンポジウム

「私たちは何を継承すべきか

—長崎の被爆・戦後史研究から見えてくるもの」の開催について

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）は、「私たちは何を継承すべきか—長崎の被爆・戦後史研究から見えてくるもの」と題してシンポジウムを開催いたします。



第5回研究会の様子

日時：令和2年2月15日（土）13：30-16：30

場所：長崎大学文教キャンパス 教養教育講義棟 A-13 教室（環境科学部建物の1階）

プログラム：別紙ご参照ください。

※入場無料、事前申込不要。駐車場はございません。公共の交通機関でお越しください。

<背景>

RECNA では、戦後取り組まれてきた記録や研究の数々を、被爆地から生まれた人類の知的遺産として受け止め、意義を検討することを目的とした「長崎被爆・戦後史研究会」を2017年度に立ち上げ、桐谷研究員、山口研究員を中心に活動してきました。この度総括として、本シンポジウムを開催いたします。

“核兵器廃絶を視野に入れた「原爆／被爆体験の継承」を考える際、そもそも「何を継承すべきか」が問われることは少ない。そこで、このシンポジウムでは、原爆被災が戦後の長崎において人々にどんな影響をもたらしたのかについて多角的に検証し、核兵器使用が社会に対してもたらす甚大な被害とそこからの歩みについて、被爆地・長崎から考えてみたい。”

【本リリースに関するお問い合わせ先】長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）

TEL：095-819-2164